

「いつまでも赤ちゃん言葉で大丈夫？」

子どもが話している言葉を聞いていて、カ・サ行が上手く発音出来ていない事があります。

例えば、「サカナ」が「タカナ」や「チャカナ」だったり、「センセイ」が「チェンチェイ」「テンテイ」という事があります。

これは発達器官が未発達な幼児期によくみられ一般的には小学校低学年頃には自然と直ります。

でも、気になるからと自己流で子どもの発音を直そうとするのは、NG！特に、無理やり発音を「違うでしょ！サ・カ・ナ！」と言い直させるようなことをしてはいけません。

まずは、正しい発音を聞かせる事が大切です。

子どもの言葉を否定するような事はせず、例えば「チイロのタカナがいる！」と話しかけてきた時には、「そうね。キイロのサカナがいるね！」と会話の中で正しい発音を聞かせる事が良いですよ。

可愛さあまりに赤ちゃん扱いをせずに、会話の中で正しい発音に触れる機会を持つ事が大切です。

しかし、聴力に問題があったり、舌の長さや形、歯並び、あごの構造などの発音器官に何等かの異常がある場合は、正しい構音発達が妨げられてしまいます。

このような場合は、専門の医療機関や言語の発達相談との連携を取る事が必要になります。